

- 人口減少、少子高齢化が進む中、長期的な「定住人口」や短期的な「交流人口」のほか、地域や地域の人々と多様に関わる者である「関係人口」に着目し、地域外の者からの交流の入り口を増やすことが必要（これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会（座長：小田切徳美 明治大学教授）中間とりまとめ（平成29年4月公表））。
- 「関係人口」が持つ、「ふるさと」の地域づくりに貢献したいという想いを継続的に受け止める仕組みをモデル的に構築。

事業イメージ

- 「関係人口」の実態を把握するとともに、各モデル団体の取組を検証することにより、「関係人口」を地域づくりに生かすための施策について調査研究
- 「関係人口」に対して、「ふるさと」の地域づくりに関わるきっかけを提供する地方公共団体をモデル的に支援



「ふるさと」への想いを受け止める新たな仕組みを構築することにより、「関係人口」を地域づくりの担い手の一員として捉え、「ふるさと」とのより深い関わりを創出。

